

# 「技術を磨けば未来が光る」 石巻 高技専NEWS

【発行元】  
宮城県立石巻高等技術専門校  
〒9860853  
石巻市門脇字青葉西27-1  
☎0225(22) 17119  
令和4年 8月 1日発行

大きなものならビルや橋梁、船舶、小さなものなら携帯電話やパソコンの部品、さらにはそれらを作るための金型・工具まで、我々の日常生活は、金属製品なしでは考えられないものになっています。

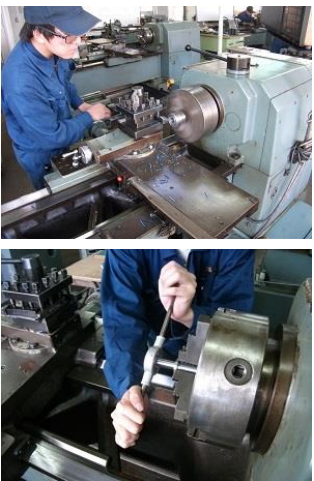
当校の金属加工科は、そうした金属を加工するための技術を学ぶ課程です。金属加工の技術を学んだ場合、どのようなメリットがあるのでしょうか？また、どんな人が金属加工に向いているのでしょうか？

当校金属加工科のOBで、現在はある企業で採用されているAさんにお話をうかがってみました。

「手を動かす」仕事に向いている人は多いはず

Q:どんな人が金属加工に向いているのでしょうか？

Aさん:よく「自分は何も特技がないから事務でもやりたい」という人がいます。しかし、実際にやってみれば分かりますがこれは勘違いです。事務の仕事は、机に座ってひたすら数字を追っていくようなものが多いため、気が散りやすい性格の人には不利になります。誰でもできるように思われがちですが、人によって向き不向きがはつきり出る仕事です。そうした仕事よりも、「手を動かす」仕事に向いている人の方が、実際には多いと思います。そういう人には、金属加工には限りませんが、「手に技術をつけて」就職することをお勧めします。特に、金属加工は様々な業種・事業所で必要とされる技術ですので、ぜひお勧めしたいです。



技術が進歩しても人の「手業」が必要になることはない

Q:せっかくながら技術を覚えても、AIや3Dプリンタなどの技術革新によって不要になってしまふことはないでしょうか？

Aさん:技術はどんどん進歩していくでしょうが、それによって技術者が不要になることはないと思います。まず、AIや機械学習ですが、開発するコストが膨大にかかることを考えると、何もかも機械が独力で行うようにはならないでしょう。



アーク溶接の訓練風景。電気を使用することによって、非常に高い温度になるため、さまざまな金属を溶接できる。

特に、溶接などの仕事は、工場以外の現場に行くと、その場の環境に対応しながら行わなければならない場合が多いです。こうした作業をAI化・自動化するのは無理があります。それよりも、人間の能力と機械の技術をうまく組み合わせ、より高度なことができるようになる方に技術開発は進んでいくと思います。また、仮にかなりの部分が自動化されたとしても、機械に「どのようなものをつくるのか」指示(入力やプログラム)する人間が必要で、それは金属加工のノウハウを分かっている人がやる必要があります。ですから、学んだことが無駄になることはないと思います。

採用する側から見た高技専修了生のよいところ

Q:採用する側から見て、当校金属加工科の修了生を採用するメリットは何でしょうか？

Aさん:なんとといっても、時間をかけて溶接の技術を学んでいる点です。溶接の技術は、特に訓練時間が必要になります。採用されてはじめて溶接を学ぶとなると、勉強だけをやっていくわけにはいきませんから、資格が取れる程度になるまで、平気で数年間かかかってしまいます。金属加工科の修了生なら、既にガス溶接やアーク溶接の資格を取っていますから、即戦力になります。

賃金水準は企業の技術水準による  
Q:金属加工=低賃金というイメージがありますが。

Aさん:従業員にどのくらいの賃金を払えるかは、その企業の収益性により決まるとしてもできる技術しか持っていないと価格競争になりますから、収益性が低くなり、従業員に低い賃金しか払えません。「この仕事はここに頼むしかない」という技術を持った企業なら、収益率が高く、従業員の賃金も高くなります。一例をあげれば、医療機器や、半導体製品を製造する機器をつくらせているような企業は収益率も高いです。高技専の指導員はそのへんの事情も分かっているはずで、就職指導もきちんとしてくれているはずですから、もちろん、「いい企業」に入るには、動かしや技術向上への熱意が必要です。「腕次第で稼げる」のが金属加工のよいところだと思います。



金属は曲げたり伸ばしたりできる。機械を操作して、思ったような形に曲げる訓練を行う。

学ぶ人たちのメッセージ

Q:金属加工を学ぶ人、これから学ぶうとする人にメッセージをお願いします。

Aさん:技術はどんどん進歩するので、常に新しいことを覚えていかないと時代に取り残されてしまいます。大切なのは、新しいことを学び続ける習慣です。学んだ技術は、自信につながります。しっかりと学んでください。

当校公式Twitterを開  
しました！  
下記QRコードからぜひ  
閲覧してみてください。

